

むい な むじ こと むみ あじ しょう だい しょう た
無為を為し、無事を事とし、無味を味わう。小を大とし少を多と
うら むく とく もつ かた そ やす はか だい そ
し、怨みに報ゆるに徳を以てす。難きを其の易きに囚り、大を其の
さい な てんか なんじ かなら やす お てんか だいじ かなら
細に為す。天下の難事は必ず易きより作り、天下の大事は必
さい お ここ もつ せいじん つい だい な ゆえ よ そ
ず細より作こる。是を以て聖人は、終に大を為さず、故に能く其の
だい な そ けい だく かなら しんすく たい かなら なんおお ここ
大を成す。夫れ軽諾は必ず信寡なく、多易は必ず難多し。是を
もつ せいじん なお かた ゆえ つい かた な
以て聖人すら猶これを難しとす、故に終に難きこと無し。

【大体の意味内容】ことさらな仕事を一切為さずに自然体であり、仕事したような顔もせ

ず、何の面白みも無いようなことの味わいに感動して生きる。とるに足らない小さなこと
を大事にし、ささやかな幸を、身に余る多量のものを受け止め、怨みごとへの報復として
は、仁徳を以てできるだけ相手に施し、感謝する。難しいことは、易しいこととして対処
し、大掛かりなことは、細かなこととして取り扱う。(どんなに大きな難問でも、それは
必ずシンプルな基本から成り立っているものだからである。)同様に、天下の難題も、必
ず容易な問題から始まっており、天下の一大事も、細かな事件のつながりや取り合わせに
すぎない。それゆえに聖人は、ことさら大それたことを為そうとはせず、本質を突くのみ
であるから、結果的に偉大な仕事を成し遂げるのである。自らを大物と装って、軽々し
く人の期待にこたえるかのように見せかけてばかりの者は、必ず信用信頼を失うことと
なる。安易な対応ばかりで自分の評判を上げようと目論んでも、必ず難儀なことが噴出
して対応しきれないことになる。だから聖人ですら、どのような些細な問題にも、必ず難点
が潜んでいることを予感して慎重に対処するから、結果的に、解決しきれない難題に

直面してしまおうということがなくなるのである。

途中で使ったコンステレーション(constellation)という言葉は、心理学では「布置・配置」と訳されることもありますが、本来は「星座」のことです。オリオン座とか北斗七星とかの星座は、その図を作っている星たち自身は実際に横に並んでいるわけではありません。地球からの距離が比較的近いものもあれば大変遠いものもあり、私たちがから見えている星座の星たち同士は、互いに全く無関係、仲間でも家族でも親戚でも何でもありません。たまたま地球から見ると「ひしゃく」の形に並んで見えただけです。関係ないけれど、そうした取り合わせが私たちに物語を作らせています。

同じように、私たち自身、生きていくうえで様々な人や出来事との組み合わせ・取り合わせを通じて、自分でも予想もなかった精神状態になったりすることがあります。

たとえば、本当はAさんが好きなのだけれど、たまたまBさんと話したり手伝ったりする場面が連続したり、偶然拾った財布を警察に届けたりそれがまたBさんの家族のものだったり、そんな「たまたま」とか「偶然」とかの取り合わせで何かが始まってしまったりということがあったりします。

原因が特定できない、偶然的の取り合わせに私たちが「布置(配置)」「されてしまっ、その状況にふさわしい心理状態を生きたりすること」。

これをコンステレーションといいます。

「物事は必ずしも原因と結果で成り立とは限らない」「とっぴいですが、実際問題、単純な因果論では説明のつかないことが生身の私たちには多いですよ。それを、特別に複雑な因果関係の絡み合いといっしょうに思い込んでも、何が何でも原因理由を究明しようとするから、かえって混乱するのじゃない。』『せや』『か』『言』『ひ』『し』『て』『、』『物事は本来「易きこと」や「細かごと」の組み合わせで成るのだと思えます。』

なるほど、物事はおおらかにとらえた方が、世界は豊かに見えるものかもしれません。